friendship force WESTERN TOKYO

2023年6～9月　FF西東京クラブ　会報第38号

今年の夏はめちゃ暑かったですね。今回の会報はあまり内容を知らなかった（私だけ？）英語研修旅行がメインです。クラブ間を超えて、寄稿していただきました。もちろん、ルーマニア渡航の記事もあります。お楽しみください。

オーストラリア英語渡航　　AC　石井嗣代

三年ぶりの英語渡航は、ホストの設定や渡航者の募集など一から再スタートとなった。西側のパースと東側のノースモレトンを訪問した。渡航者は五クラブから十五名が集まった。その内初めての渡航者が九人だったので、丁寧な説明を心がけた。八月に設定したので学生さんが可能となり、十二才から二十一才のアンバサダー五名の参加、西東京から五名の参加だ。日常での会話をなるべく図ること以外に、それぞれのクラブの工夫があった。

パースでは英語テーマ渡航という事で、随所に工夫をして頂いた。自分を紹介する写真を持参し、個々に説明する、グローサリーに行って渡されたショッピングリストの値段を調べてくる、日本文化紹介で折り紙や習字セットを持参してデモンストレーションなど。

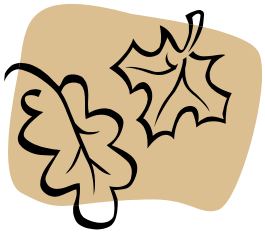
ノースモレトンでは、まずグループになって自己紹介、毎日Home coming the Gum Treesの歌詞を渡されてこれを歌う、日記を書くようにとノートを渡される、バス移動中は英語教室となる、日本語科目のある高校に訪問交流などがあった。

年齢の幅広さを考えて、両クラブとも、子供たちが飽きないよう、プランの工夫を随所に感じた。パースのパーティの一隅ではジグソーパズルが置いてあり自由参加、湿地公園で散策、独自の植物や動物についてガイドさんの説明の後は展示館で画面の鳥になって飛んでみるブースがあった。コアラやカンガルーなどの動物たちに会う機会も多かった。

また両クラブとも、始まりと終わりはゆったりしたプログラムとし、真ん中に早起きしたり遠出したりのプログラムが入っていたのは、皆最後まで元気で居られて良かったと思う。

オーストラリア英語研修報告　　松尾　栄子

参加者は15名（内西東京5名）、お子さんも含む年代層豊かなグループでした。参加大学生のうち2名は「独りで」ホームステイを希望とのことで、おそらく“日本語”を頼りにしないつもりだろうその姿勢に感心しました。イベントは素晴らしい景観や広々とした公園でのモーニングティー、BBQ等、現地の自然を満喫できる会場が多く、ホストクラブの慣れた様子に、日常の中にピクニックがあるのはうらやましい限りです。他に動物園、戦前からの建物が商業施設になっている地域の観光、クルーズ、カントリーバンド、それと市長との面談もありました。タイトルになっている英語研修らしさは少なかったのですが、振り返ってみると、おしゃべりする時間はあったのに、しつこく質問することに遠慮して習得が少なかったように思います。とかく学びは自分から取りにいなかいとだめですね。新しい体験と気づきを経験させて頂きありがとうございました。



英語研修渡航参加して　　埼玉クラブ　　浜田聖子

久しぶりの海外渡航で、パースの空港でホストのグレンと会えて一安心。彼女は、エネルギッシュで彼女とのおしゃべりは、彼女の暮らしぶり、これまでの人生等々興味深かったです。プログラムは市長訪問や、動物園、公園散策　観光など盛り沢山ですが、やはり思い出に残るのはその時々に会った人たちの会話でした。

次にノースモートンに、移動してホストのジューンとジョンたちの、暮らしぶりを見ました。彼らは30キロほど離れた牧場の管理をしています。でもバーベキューの時に話を聞くとクラブの活動に積極的に関わることが大切な生活の一部だということを知りました。

またこの旅で、日本各地のメンバーと知り合えたのも大事な収穫です。

オーストラリア英語研修報告　　静岡クラブ　瀧澤　しほり

私は初めてFFの皆様とオーストラリアで語学研修をしました。学校に行って勉強をするのではなく、アクティビティやホームステイを通して勉強できる環境は実用的で、とても充実したものになりました。自分のホスト以外の方とも交流でき親睦を深められることがFFを通しての国際交流の魅力であると実感しました。PerthではTrudyがホストをして下さり、BrisbaneではKathleenがホストをして下さいました。家では、テレビを一緒に見たり、音楽を聴いたり、ご飯の準備をしたり、話をしたり、ホストの日常を経験できました。アクティビティでホストと離れる際や、空港でのお別れの際は、寂しくなるくらいいつも家族のように接して下さいました。ホストだけではなく、オーストラリアのメンバー、日本のメンバーと貴重な体験ができたことに感謝し、より英語の勉強に励みたいと思います。

頑張る源侍君と春駆君

松尾さんと田中さん

雨でもBBQ頑張るパースクラブ

ルーマニア渡航の思い出　　田中正子

　コロナ禍の自粛の日々が終わり、待ちに待った渡航の第一弾はルーマニアのシビウでした。西東京クラブ6名と愛知クラブ3名の合計9名は、先ず6月24日ミュンヘンで集合しビールで前祝い。初対面の人でもそこはFFの仲間、すぐに意気投合し大いに盛り上がり、翌日いざシビウに出発。空港ではシビウの皆様が暖かく出迎えてくれました。
翌日から毎日盛りだくさんのプログラムを準備していただきました。手作りのルーマニア料理を堪能した後に楽しく歌合戦をした歓迎パーティーを始め、中世の歴史を色濃く残すシギソアラやアルバユリアへのバス旅行、民族博物館の公園散策、そして更に副市長さんに出迎えられて市庁舎を案内され、議会場に皆着席して、副市長さん自らルーマニアの歴史や文化の紹介をしてくださいました。丁度、有名な国際演劇祭の開催中で、世界中から演劇人が集まり、公演やストリートパフォーマンスなどで、お祭りの賑わいでした。
　シビウは12世紀にドイツ人が入植して作ったいくつかの砦の町からなる地方で、20世紀半ばにドイツ系住民がドイツに移住していったが、ドイツ系の福音協会や、学校などがありドイツの影響を強く感じる町でした。常に周りの民族からの脅威に晒され、またヨーロッパの最東の地として東からの圧力と戦った勇気ある民族である等々、普段東ヨーロッパの歴史に触れることが少ないなか、貴重な勉強の機会となりました。

追記：その後、ウィーンでウィーンクラブの方々にデイホストして頂くなどお世話になりました。

ルーマニア渡航　　宇梶　淑恵

６月２４日から１週間、ルーマニア中部にあるシビウでホームステイをしました。
シビウは、12世紀にザクセン人によって造られたトランシルバニア地方南部の古都で、中世の城壁や建物の残る美しい街でした。
ホームステイ先のホストのマリアは、おしゃれで料理上手、息子思いのよき母のお手本のような方でした。

彼女との忘れられない思い出は料理。中でも毎朝の朝食と手作りジュースです。毎朝必ず出るナスのペーストは、もちろんマリアの手作り。これはルーマニアの国民食で、パンに塗って食べます。ジュースの原料はSOC（菩提樹の花を乾燥させたもの）、レモン、砂糖。優しい、飽きのこない味でした。

マリアは日本でも作れるように、分かりやすく作り方を教えてくれました。ナスの事を「オーベルジン」と言っていたので料理の名前だと思っていたら、フランス語でナスと言う意味でした。マリアは英語よりフランス語が得意なのできっとフランス語で教えてくれたのだと思います。帰国後、早速挑戦したところ、美味しく作ることができ、ルーマニアの思い出を身近に感じ、再度嬉しかったです。

歴史散策や街歩きも楽しかったですが、料理を通してマリアとの距離がとても近くなり、素敵な交流ができたこと嬉しく思います。新たな出会いや体験ができ、とても充実した交流でした。シビウクラブのメンバーとの再会の日を楽しみにしています。

開成町のアジサイと酒蔵見学　お世話役：田中満穂、正子

(6月1日、11名参加)

山ふところに広がる田園風景の中、色とりどりのあじさいを愛でながら、のんびり語らいながら歩くことができました。勢いよく流れる豊かな水も、風景に音と清涼感と勢いをつける、大事な役割を担っていましたね。瀬戸屋敷での軽食がおいしかったです。酒蔵でも、案内人の詳しく丁寧な説明で、皆さん満足の様子でした。(八塚住子)

静岡クラブとのZOOM交流会

ゴールドコーストクラブ受け入れを西東京が7泊その後3泊を静岡クラブが受け持つことになりました。エピソードを分かち合うとともにクラブの運営や内容についても情報を交換したいと思い、5月17日夜8時からズーム交流会を実施しました。静岡クラブからは11人、西東京からは10人の参加です。生憎FR会議と重なり静岡クラブのHCは不参加でしたが完璧な申し送りで良く理解できました。プログラムはお互いの地域の特色を活かしたものでアンバサダー達は満足したと思います。マスコミへのアピールもFFの宣伝には欠かせないのだと実感しました。

(今村佐知子)

今後の予定＜ニューカレドニア渡航＞

ヌメアには郡山クラブの2人を含め9人で渡航します。今回は全員自分たちでFFへフィーの支払いをしました。ズームで顔合わせをして、余興の出し物は東京音頭と決まりました。サブ作成のアンバサダーリストも送りました。目下先方からの予定表、マッチングリスト、ホストフィーの送金先の情報を待っている状態です。(AC　今村佐知子)

発行日：2023年9月30日第38号
会報担当：佐藤　薫　中川貴文